

別紙

第三者評価結果報告書（総括）

報告日 平成 18 年 3 月 27 日

評価機関名	社会福祉法人横浜市社会福祉協議会 横浜生活あんしんセンター		
評価実施年月	2005 年 11 月～2006 年 3 月	公表年月	2006 年 4 月
対象サービス	保育園	対象事業所	きらら保育園

**【施設の特徴】**

きらら保育園は、京浜急行の能見台駅から徒歩 5 分のニュータウンの中にあります。周辺はアメリカのボストンで 19 世紀に作られた高級住宅街「ビーコンヒル」をイメージした高層住宅が建ち並び、隣接地にはショートステイセンターや地域ケアプラザ・特別養護老人ホーム・知的障害者通所更生施設・地域活動ホームなどがつくられ、福祉ゾーンの一隅になっています。

平成 12 年に開設された園舎は天井に杉、太い梁には赤松、床には檜などの国産木材をたっぷり使った、木のぬくもりがふんだんに感じられる造りになっており、全保育室から南側のテラスに出られるようになっています。ランチルームは吹き抜けになっており、高い窓に描かれたステンドグラスの「太陽」や「海」「山」などが各クラスの名前になるなど、趣向が凝らされています。

保育内容は、イタリアの教育家モンテッソーリの教育理念に基づき、「自分でしたいことができる（自立）」、「自分がしたくないこともできる（自律）」、「自分がしたいことでも我慢できる（自律）」を保育目標に掲げ、縦割り保育を実施し、年度の途中でも発達に応じてクラスを移行するなど、子ども一人ひとりを大切にしたい保育を実践しています。

子どもたちそれぞれの発達に合わせ、モンテッソーリの教具や園が独自に工夫した遊具などを利用した創造的な「遊び」を行う一方で、3～5 歳児は、年齢別に音楽・リズム・運動など専門講師による一斉活動を行うなど集団意識を育てる活動も行われています。

さらに、地域の子育て支援にも力を入れており、市内で 6 園しか行われていない病後児保育の実施をはじめ、一時保育や長時間保育、園庭開放、育児相談、子育て講座、子育て支援サークル「きららっこクラブ」の開催など、活発な地域子育て支援事業を展開し、H17 年 10 月からは、地域子育て育児支援センター園として活動をしています。

**【特に優れていると思われる点】**

**モンテッソーリ教育を柱にした一人ひとりを大切にする保育の実践**

イタリアの教育家モンテッソーリの教育理念（子どもの心身の発達段階をふまえ、自発的活動を尊重する教育法）を取り入れ、子どもが「知りたい」「できるようになりたい」という欲求（探求心）を大切に、子ども一人ひとりの発達に合わせた活動や援助を実施しています。

1歳～2歳児、3～5歳児の縦割りグループが2つずつで活動し、年度途中でも個々の発達段階に合わせてクラスの移行が行われます。移行の際は担当の保育士が付き添って移行し、新しい保育士に引き継がれます。縦割りの中で、年長児が年下の子どもの面倒をみたり、年少児が年上の子どもをお手本にする等相互の働きかけが自然な形で行われています。

また、すり鉢でごまをする「ごますり」や織り機を使った「ポシェットの製作」など「お仕事」と呼ばれる活動やモンテッソーリの教具を使った「立体パズル」「メダルインセツ（型が抜いてある板を使い、模様を描く遊び）」、さらに「絵の具遊び」や「色水遊び」など、多彩な活動がいつでもできるように用意されており、子どもたちの集中力や創造力が培われています。

保育士たちは、園の方針・目標をより深く理解・実践するために、モンテッソーリ教育を学ぶ専門的な教育機関に通い、資格を取得しています。また、モンテッソーリ委員会を立ち上げ、教具の見直しや子どもの見方などについて毎月内部研修も行っています。

### 保育方針が生きる環境構成

園舎は天井に杉、太い梁には赤松、床には檜などの木材がたっぷり使われ、木のぬくもりが感じられる造りになっています。全保育室から南側のテラスに出られるようになっており、保育室・テラス（1階はウッドデッキ）を一体化して使うことができるようになっています。天気の良い日などには、テラスで外気浴や水仕事・リズム遊びなども行われています。

各保育室は高い壁がなく広々しており、子どもたちの背丈に合わせた棚でコーナーが設けられ、棚には、モンテッソーリの教具をはじめ様々な遊具や絵の具など素材が並び、子どもたちがいつでも、手にとって思い思いに遊ぶ事ができるようになっています。また、一人で使える椅子や机も置かれ、子どもたちが様々な活動に落ち着いて、集中し取り組める環境構成になっています。

ランチルームはオープンキッチンになっており、子どもたちから調理の様子が見え、栄養士・調理士からも子どもの食事状況を観察できるようになっています。2階の広々とした廊下の一角には子どもたちが毎月行うクッキングのためのキッチンがあり、食育への取り組みが行われています。

階段下の隠れ家的な図書コーナーや園庭には子どもが自分の力で取り組むことで運動能力が高められるよう設計された大型遊具（雲梯や滑り台などが一体化した遊具）を設置するなど、様々なところに子どもの発達への配慮や工夫が凝らされています。

### 先駆的な病後児保育への取り組みと地域子育て支援機能

H12年10月より、専任の看護師・保育士を配置し、病後児保育「ひかり」を開設しています。現在登録者は117名で、H17年度実績は4月から12月までの9ヶ月で延216名、実人数112名で、かかりつけ医と相互に連携をとり、病気回復期の子どもを4名まで預かっています。

横浜市病後児保育協議会に所属し、月に1回病後児保育を実施している他園と情報交換や研究検討等を行うとともに、施設長・保育士・栄養士・看護師の4部門に分け、専門家を招いた研修を行うなど更なる研鑽を図っています。

また、園では、H17年10月より、地域子育て支援のための「地域子育て支援センター園」になり、病後児保育のほかにも、長時間保育や一時保育、週3回の園庭開放、毎週火曜日に開催している会員制の子育てサークル「きららっこクラブ」、育児相談や子育て講座を実施し、地域の子育て支援の中核的役割も担っています。

#### [特に改善や工夫などを期待したい点]

##### 非常勤職員を含む人材育成の更なる取り組みを

保育現場で一般的に増加傾向にある非常勤職員に対して、資質向上のための研修への取り組みは、時間的な制約があることから、どの保育現場でも現状ではなかなか困難な状況です。きらら保育園では、勤務シフトの配慮により非常勤職員でも外部研修に参加していますが、園が大切にしているモンテッソーリ教育についての研修等を含め、職員と同様の取り組みまでは至っていないことが惜しまれます。まず、園内部での非常勤職員に向けた研修制度の確立や責任・権限（役割分担）の明確化を図ることで、自らの役割と課題を一層認識するとともに、意欲的な取り組みも期待でき、保育サービスのさらなる充実が図られることと思います。

また、日常業務や研修を通して職員は自己のスキルの問題として自己評価し、職員会議等においてサービスの見直しを行っていますが、職員の技術向上のための仕組みをさらに強化するため、個々の職員の習熟度に応じた役割や目標の明確化、人事考課（能力・意欲・態度などを定期的に把握し、人事管理に反映させる仕組み）を含めた、より体系的な評価システムの確立が望まれます。

##### 幼児クラスの保護者へより細やかな連絡体制を

送迎時の保護者との口頭による連絡やコミュニケーションが、長引くことも多いことから、H17年度より幼児クラスは掲示板での連絡に切り替えました。掲示板では、連絡事項だけでなく、一日の保育内容を伝えるなど工夫は行われているものの、連絡帳での個別の連絡は、通常、便や食事などのやりとりに留まっています。

一日子どもを預けている保護者にとって、その日の子どもの様子は、楽しみでもあり、気がかりでもあるでしょう。家族アンケートからも子どもの様子をもっと「聴きたい」「知りたい」などの声が複数あがっていました。今後、幼児クラスの連絡帳のさらなる活用やメール等新しい方法も含め、より細やかな個別の連絡体制への工夫を期待したいと思います。

### 今後の施設運営に向けたさらなる取り組み（中長期計画の策定）を

園では、絶えず市の動向や今後の保育情勢、地域の子育て環境などの情報を収集していますが、それを活かして、さらに一歩先を見据えた課題設定や環境整備を計画的に推進していくことが大切と思われます。法人として、新しいサービスプロセスや運営の仕組みを検討するとともに、中長期的な事業の方向性を定めた計画を立てることで、一層効率的・効果的で安定した施設運営を図って行くことができると考えられます。

また、日常の保育の中で、地域の高齢者とともにいる公園での「花壇づくり」や公園散歩時の「ゴミ拾い」、リサイクルへの取り組みなど、積極的な活動が行われていますが、園が一体となって環境への配慮を行うためには、具体的にどのような環境改善に取り組むかを園の方針や目標で明確化し、環境にやさしい保育園であることを打ち出すことで職員や利用者をはじめ、市民からも安心や信頼が高まると考えます。

#### 評価領域ごとの特記事項

1	人権への配慮	<p>保育の基本方針・保育目標では、モンテッソーリの理念に基づき、子ども本人を尊重する「自立」「自律」を柱にしている。</p> <p>会議や研修を通して、子どもの人格の尊重について、保育士同士がお互いに建設的な意見を出し合い、反省し合っている。</p> <p>外部の障害児研修への参加やクラス研修が行われ、障害児保育に積極的に取り組んでおり、保育士は障害のある子どもにも、障害のない子どもにも同様の接し方をすることで、同じクラスの友だちとしての理解をすすめて、子どもたちが自然な形で受容できるよう、配慮している。</p> <p>外国籍の子どもの受け入れに際しては、いろいろな国の子どもたちの写真を見せ、理解を促すとともに、文化（暮らしぶりなど）を紹介した本等を意識的に提示するなど異文化を学ぶ活動へとつなげている。</p> <p>虐待に関しては、子どもの様子が疑わしいときや保護者に異変を感じたときには気をつけて観察し、保護者に困っていることはないか声をかけるとともに、区福祉保健センターや児童相談所と連携を図っている。</p>
2	利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援	<p>日常保育は、理念に基づき、一人ひとりの子どもを大切に、子ども自身の「やる気」を尊重し、自らの力で取り組む保育が実践されている。</p> <p>クラスの移行は年度途中でも個別に行うため、前担当保育士が継続して関与しながら移行し、新担当保育士との情報交換を行っている。</p>

		<p>幼児の部屋にはグループで使う机のほか、一人で使える机や椅子があり、子どもが自由に取り出せる位置にモンテッソーリの教具や遊具などが置かれ、それぞれの子どもが自分の好きな遊びや仕事（活動）に落ち着いて取り組めるようになっている。</p> <p>園の特徴の一つともいえる3・4・5歳児の縦割り異年齢でクラス編成がされており、遊び・製作・給食・午睡など日常生活が一緒に行われている。</p> <p>3歳児・4歳児・5歳児はそれぞれの発達段階に応じ、毎週1回専門の指導員によるリズム・運動・音楽指導が行われている。園庭の大型遊具は、子どもが大人の手を借りずに自分の力で利用する事で、運動能力を高められるように工夫されており、子どもたちは発達段階に応じて挑戦している。</p> <p>布オムツを使用し、お座りができるようになる7ヶ月頃から排泄の自立が出来るまで、一人ひとりの排泄時間に合わせてオムツを取り替え、排尿チェック表を作成し個人差を捉え、個別のトイレトレーニングを行っている。</p>
3	サービスマネジメントシステムの確立	<p>事務室の窓口ガラス面に苦情解決の目的・解決体制・第三者委員の名前・住所・TELが掲示されている。さらに、事務室窓口にポストを設置している。意見・要望・苦情・不満の申し出用紙も備え付けられている。</p> <p>登校停止基準、感染症早見表、経路と予防対策など感染症マニュアルがあり職員に周知されている。入園時に配布・説明される「きらら保育園ガイド」には医療機関記載による登園許可書と保護者記載による「感染症病状確認書」の提出等が明記されている。</p> <p>各クラスに一人ずつ配置されている保育士による保健委員を中心に栄養士や看護師も含め毎月1回保健委員会が開催され、園内の衛生管理状況を見直している。</p> <p>事故記録が作成され、発生場所ごとにデータ化されている。事故やヒヤリ・ハットケースなど再発防止に向け改善すべき点を職員会議などで話し合っている。</p> <p>玄関の鍵はオートロック方式で常時施錠されており、職員、保護者がカードキーを持ち、その都度開錠を行っている。</p> <p>各クラスに通報係が置かれあらゆる場合を想定した通報訓練なども実施しており、所持しているブザーや緊急テレホンリスト等を活用して緊急通報体制が取れる仕組みになっている。</p>

4	地域との交流・連携	<p>H17年10月より、区内の地域子育て支援センター園として活動を開始している。また、登録制で週に1回活動を行う育児サークル「きららっこクラブ」(H17年度は、4グループ、それぞれが年9回、計36回の活動を実施。)や「一時保育」、「園庭開放」(火曜日、水曜日、木曜日の11:00~12:30)等を行っており、さらに「育児講座」の際に実施するアンケート等を通して感想や要望の把握に努めている。</p> <p>他園に先駆け、専門の看護師を配置し、「病後児保育」に取り組んでいる。</p> <p>育児相談は月~金の9:30~16:30に実施されている。主任保育士を中心に園長、看護師、栄養士等が必要に応じて対応している。毎月子どもたちが、金沢ショートステイセンターや能見台地域ケアプラザ等に手作りのカレンダーを持って訪問し、高齢者と交流を図っている。さらに、交流行事として、敬老のつどいや餅つき、クリスマス会等を行っている。餅つきには学生ボランティアの参加もある。</p> <p>能見台小や西柴小など地域の小学校では、学校案内をしてもらい、一緒に遊ぶなど交流を図っている。小学生の保育体験も受け入れている。</p>
5	運営上の透明性の確保と継続性	<p>全国保育協議会や日本保育協会などの保育団体から毎月情報を収集している。経営・運営等の情報は事務室に掲示されるなど積極的に公開され、必要に応じてチーフ会議で話し合わせ、職員にも説明されている。</p> <p>重要な意思決定にあたって、2ヶ月に1回行われる保護者会や年1回行われる座談会・懇談会の機会をとらえて保護者に説明するほか、園便りなども活用し報告・説明を行っている。</p> <p>経理は会計事務所に依頼しており、アドバイスを運営面に活かして透明性・効率性を高めている。</p>
6	職員の資質向上の促進	<p>園の理念・方針であるモンテッソーリ教育に理解を示す人材(職員)を、必要に応じて補充・育成していく計画が策定され、実施されている。</p> <p>モンテッソーリ養成コースをはじめ横浜市等の外部研修への参加及び他施設への実地研修等が、積極的に行われている。研修参加者は、資料・報告書を添付した「復命書」を作成し、非常勤職員等を中心とする未参加者の教育資料として、有効に利用されている。</p>

		職員の意向調査、園長・主任とのノート交換等により、改善提案・要望等を把握する仕組みがあり、職員からの提案が業務に反映されている。
--	--	--